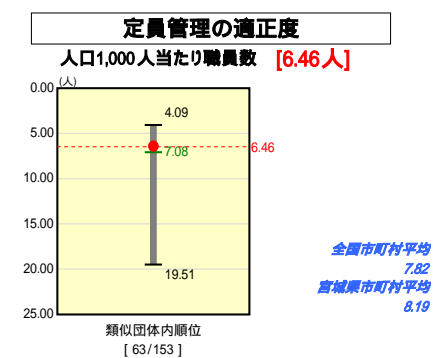
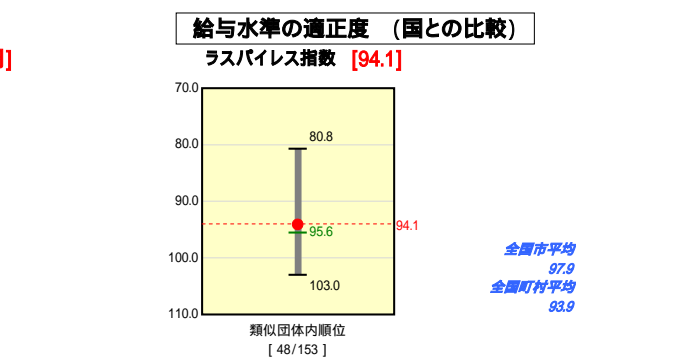
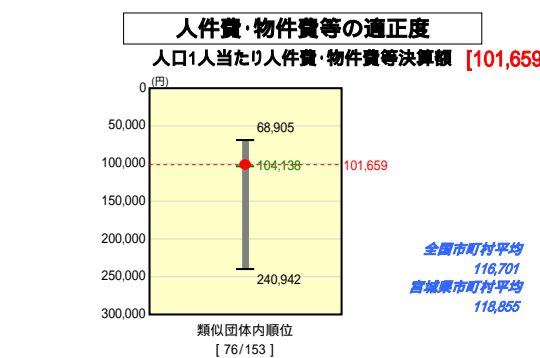
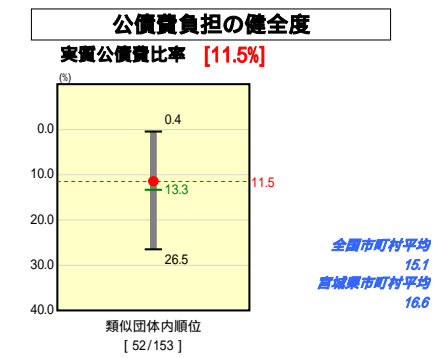
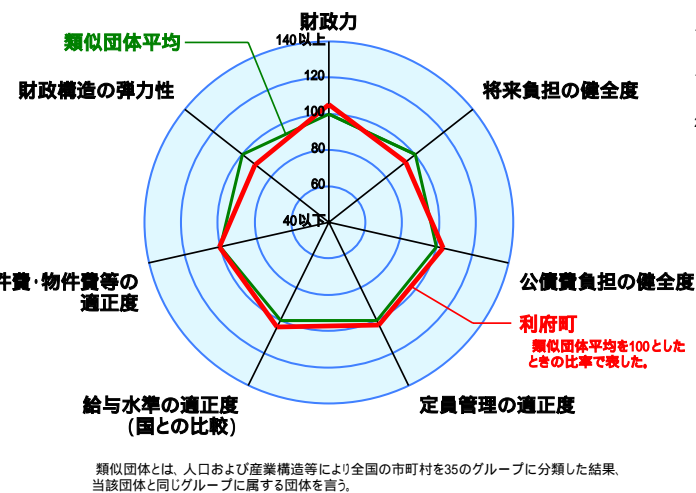
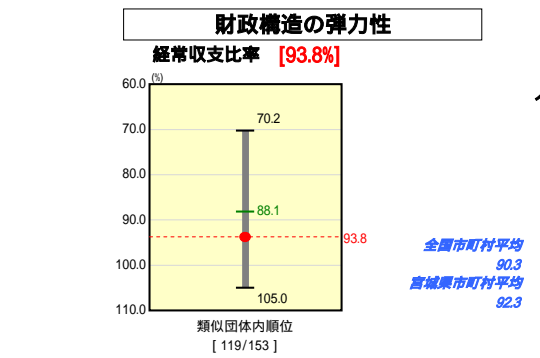
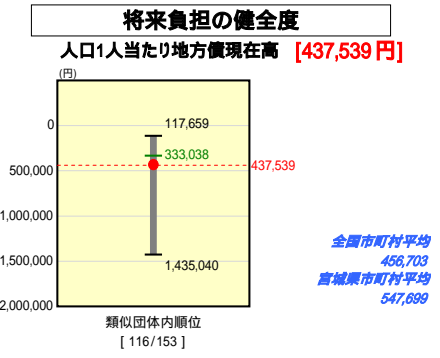
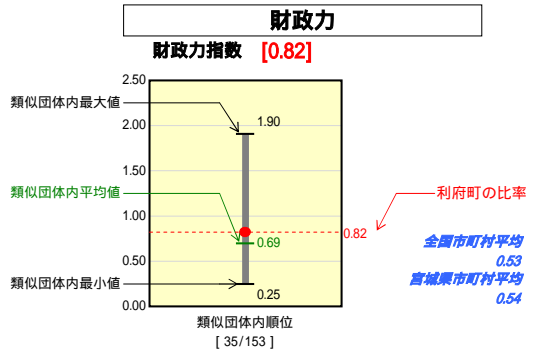


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

宮城県 利府町

人口	33,130	人(H19.3.31現在)
面積	44.75	km ²
歳入総額	8,469,316	千円
歳出総額	8,147,866	千円
実質収支	232,074	千円



分析欄

「**財政力(財政力指数)**」:新幹線両基地や大型ショッピングセンターなどが建設されたことにより、類似団体平均を上回る税収があることから0.82となっている。近年上昇傾向(平成14年度から+1.27)であるが、今後も歳出の徹底した見直しや行政の効率化に努めるとともに、税収の徴収率向上対策など歳入確保に努めることにより、財政力指数は上昇するものと考えられる。

「**財政構造の弾力性(経常収支比率)**」:人口急増に伴う住民ニーズにより、過去に整備した教育施設や土木施設に充当するために借入した借債の償還により、公債費に係る経常収支比率が全体の経常収支比率を引き上げている。今後は経常経費の削減を図るため、枠配分による予算編成を継続するとともに、事務事業の見直し、各種事業の優先度を厳しく点検していく。さらに、町税等の徴収施策の向上により、経常収支比率の改善が図られるものと考えられる。

「**人件費・物件費等の適正度(人口1人当たり人件費・物件費等決算額)**」:人件費、物件費及び維持補修費の合計額の1人当たりの金額が類似団体平均を上回っているのは、主に物件費が要因となっている。これは主に屋内温水プール等の施設管理運営に要する経費が多額になっていることによるもので、今後は指定管理者制度の導入など委託化を推進し、コストの軽減を図っていく。

「**給与水準の適正度(国との比較)(ラスパイレス指数)**」:全国町村平均とほぼ拮抗し、類似団体平均を1.5ポイント下回り、適正水準内にあると考えられる。定率制だった管理職手当を級別定額制に移行し、また時間外勤務の削減にも取り組んでいるが、今後も引き続き適正な給与水準の保持に努めていく。

「**将来負担の健全度(人口1人当たり地方債現在高)**」:近年の都市化に合わせた人口急増に伴う小・中学校の建設や老朽化に伴う庁舎建設など大型プロジェクトに係る借入で類似団体平均を上回っているが、起債抑制策(当該年度元金償還額を上回らない当該年度借入額の設定)を実施しており、地方債現在高は着実に減少している。(ピーク時の平成14年度末:約165億円 平成18年度末:145億円、20億円;12.1%)今後もこの方針を政策的に推進し、地方債現在高の削減に努める。

「**公債費負担の健全度(実質公債費比率)**」:将来負担の健全度(人口1人当たり地方債現在高)が類似団体平均を上回っているが、「公債費負担の健全度(実質公債費比率)」は、平均を下回っている。これは、歳入全体に占める町税収入の割合が比較的高く、自主財源比率が高いことによるものである。今後も地方債残高の削減はもちろん、政策的に課税客体を増やし町税収入の増加に努め、実質公債費比率の削減に努める。

「**定員管理の適正度(人口1,000人当たり職員数)**」:平成22年4月1日までの集中改革プランの定員管理の数値目標(純減率)は小さいが、平成17年度までを含むこれまでの確実な職員数削減の成果により、類似団体平均・全国市町村平均とともに下回っている。今後も指定管理者制度の導入推進などにより、簡素で効率的な組織づくりに努めていく。